

一般社団法人日本地質学会2014年度総会記事

一般社団法人日本地質学会 2014年度総会議事録

以下のとおり、2014年度定時社員総会を開催した。

日時 2014年5月24日（土）15：30-17：00
会場 北とびあ第2研修室（東京都北区王子1-1）

- 総会開催にあたり本日出席の代議員から、議長として利光誠一代議員を、副議長として三次徳二代議員を選出した。
- 議長は審議開始に際し、書記として加藤潔代議員ならびに小田原啓代議員を指名し、また、同時に議事録署名人として、両名を指名した。

議長は、本日の出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数67名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員（=社員）総数 132名
議決権総数 132個
出席者数（委任状、議決権行使者含む）111名 この議決権総数111個
出席役員 代表理事（会長）：石渡 明
理事：ウォリスサイモン（副会長）
渡部芳夫（副会長） 天野一男 安藤寿男 井龍康文 永広昌之 小山内康人 笠間友博 川端清司 川辺文久 小嶋 智 齋藤 真 坂口有人 佐々木和彦 柴正 博 高木秀雄 竹内誠 内藤一樹 中澤 努 西弘嗣久 田健一郎 平田大二 星 博幸 保柳康一 松田達生 宮下純夫 向山 栄山路 敦 山本高司 脇田浩二
監事：青野道夫 山本正司
以上 理事31名、監事2名

1号議案 定款の改正

齋藤常務理事より、定款の改正について概要が説明された。

本議案については、特に質疑応答がなく、提案どおり全会一致で承認された。



2号議案 総会規則の改正

齋藤常務理事より、総会規則の改正についての説明がされた。

本議案については、特に質疑応答がなく、提案どおり全会一致で承認された。

3号議案 選挙規則の改正

齋藤常務理事より、選挙規則の改正についての説明および、それに伴う選挙細則の改正点についての説明がされた。

本議案については、特に質疑応答がなく、提案どおり全会一致で承認された。

4号議案 2013年度事業報告・2013年度決算報告

1) 齋藤常務理事から資料にもとづき2013年度の事業報告があり、会員の動静、学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動、学会の行事・事業についての報告がなされた。

また、2013年度内および総会開催の本日までに逝去された（逝去が判明）会員20名（うち名誉会員3名）に対し、黙祷を捧げた。

石渡会長より、地質学会の各賞の表彰について、表彰理由は選考委員会が熟慮した文章であり、理事会の決定をうけて公表しているものであるため、受賞者及び関係者が他の媒体に掲載（紹介）するために利用する場合においても原文を尊重すること、との要望が出された。

2) 会計担当の西理事から2013年度決算について報告があった。収入としてはIsland Arc誌関連の収入が前年度内の計上となったことにより減収、また、全体としては支出が予算をやや上回ったため、2013年度は約160万円の赤字決算となったとの報告がなされた。

<会計監査報告>

その後、山本監事より会計監査の実施報告があった。会計は適正に処理されているとの報告であった。なお、これまで6年にわたり会計監査を実施してきたが、ここ2年連続して赤字決算となっている。会員数の増加が見込めない中、財政を立て直す時期に来ているものと警鐘を鳴らした。これは青野監事も同意見であるとの付帯意見があった。

本議案については一部事業報告の修正を受けたが、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

5号議案 代議員および理事選挙結果

阿部選挙管理委員長より、代議員および理事選挙結果報告があった。代議員および理事における女性の比率が低い（前期よりも低かった）ので、選挙に際しては周囲の女性会員の積極的な立候補を呼びかけて欲しいという

要望があった。

本議案については、全会一致で承認された。
*新理事名簿は巻末に添付

6号議案 2014年度事業計画

石渡会長より、2013年度の本学会の事業成果を踏まえた2014年度の事業計画の基本方針が示された。

出席代議員より、地質学雑誌において著者と編集者間でJIS規格に従うか否かについてのやりとりがあったので、ルールを明確化して欲しいという意見があった。また、各県における地学教員の採用等についての情報があり、ホームページ等で若手会員に広報すると良いという意見があった。

本議案について特に反対意見はなく、全会一致で承認された。

7号議案 2014年度予算案

西理事より2014年度の予算案について説明がなされた。

会員数の減少による会費収入の減少が見込まれる中、収入の増加策や管理費や事業費の見直しにより、計上した各種引当金を使うことなく、収支均衡予算となることが望ましい旨の説明がなされた。

本議案について特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

8号議案 日本地質学会125周年事業の実施について

矢島委員長に代わって宮下理事より、来る2018年に125周年を迎えるにあたり、その記念事業などについて説明があった。少なくとも2年前くらいから様々な事業を展開していきたいこと、これから若手・中堅会員も加えて準備を進めていきたいとの説明がなされた。

出席理事より、2016年に国際地学オリンピック三重大会が開催されるので、地質学会125周年とともに、盛り上げて欲しいという要望があった。

本議案については、特に反対意見はなく、全会一致で承認された。

以上をもって審議を終了し、石渡会長によ



る会長退任の挨拶があった後、議長は閉会を宣言した。

2014年 5月24日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2014年度総会

総会議長 利光誠一

総会副議長 三次徳二

議事録署名人

小田原啓

加藤 潔

代表理事 石渡 明

理 事 齋藤 眞

2014年度理事（任期2年）

天野一男（重任） 安藤寿男（重任）

有馬 眞（就任） 安間 了（就任）

石渡 明（重任） 井龍康文（重任）

ウォリス・サイモン（重任）

上砂正一（就任） 海野 進（就任）

緒方信一（就任） 小山内康人（重任）

笠間友博（重任） 亀尾浩司（就任）

川端清司（重任） 川辺文久（重任）

小嶋 智（重任） 清川昌一（重任）

後藤和久（就任） 齋藤 眞（重任）

榊原正幸（就任） 坂口有人（重任）

佐々木和彦（重任） 佐野弘好（就任）

沢田 健（就任） 菖蒲幸男（就任）

杉田律子（就任） 高木秀雄（重任）

高橋正樹（重任） 竹内 誠（重任）

竹下 徹（重任） 千代延俊（就任）

内藤一樹（重任） 中澤 努（重任）

奈良正和（就任） 原山 智（就任）

久田健一郎（重任） 平田大二（重任）

廣木義久（就任） 星博 幸（重任）

保柳康一（重任） 松田達生（重任）

松田博貴（重任） 三次徳二（就任）

宮田隆夫（重任） 向山 栄（重任）

矢島道子（重任） 山田泰広（重任）

山本高司（重任） 山路 敦（重任）

渡部芳夫（重任） 以上50名

定款の改正について

定款23条で、一般の会員が総会に陪席できることを定めた規則に文言（規則名）の間違いがあった。現行定款では「理事会規則に従い……」となっているが、理事会規則ではなく「総会規則」の間違いであることが判明。下記のとおり定款条を修正し、それに関連して定款条の文言を修正する。この修正に伴い総会規則の文言も一部修正する。

定款

第4章 総会 第23条4項

<現行>

4. 代議員以外の正会員は理事会の決議により別途定める「一般社団法人日本地質学会理事会規則」（以下「理事会規則」という）

に従い総会に陪席することができる。

<改正案>

4. 代議員以外の正会員は別途定める「一般社団法人日本地質学会総会規則」（以下「総会規則」という）に従い総会に陪席することができる。

第5章 役員等 第33条2項

<現行>

2. 理事会は、理事会規則により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、代議員に報告する。

<改正案>

2. 理事会は、「一般社団法人日本地質学会理事会規則」（以下「理事会規則」という）により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、代議員に報告する。

総会規則

第12条3項

<現行>

3. 定款23条4項により出席した会員等は、代議員等の要請に基づき、これを議長が許可しなければ発言できない。

<改正案>

3. 定款23条4項により陪席した会員等は、代議員等の要請に基づき、これを議長が許可しなければ発言できない。

選挙規則ならびに選挙細則の改正

選挙規則及び選挙細則において、前回の規則改正の際の修正見落としや文言の不十分なところが見つかったので、修正変更を提案する。

1. 選挙規則の改正

1) 第5条1項の変更は、役員ごとの改選年を加える。

（現行）役員選挙は理事および監事を選出するものとし、代議員による無記名投票により、2年ごとに全定数を改選する。

（改正）役員選挙は理事および監事を選出するものとし、代議員による無記名投票により、理事は2年ごと、監事は4年ごとに全定数を改選する。

2) 選挙規則第5条6項について、文章不備につき文言の追加修正をする。また、項番号を6項から4項に変更し、現行4項を5項に、以下順次繰り下げて11項までとする。

（現行）6. 当選理事の決定の際は定員にいたる残りの選出数に対しては、付表の所属別定員充足数を満たすこととする。

（改正）4 地方支部区選出数を除き、定員にいたる残りの当選理事決定の際は、付表の所属別定員充足数を優先する。

3) 付表のうち官公庁欄から「公団」を削除する。

4) 総会での承認の後、付則（改正）に以下の文言を加える。

・2014年5月24日一部改正

[参考] 選挙細則は4/5日の理事会にて承認され、以下のように改正されました。ここに報告いたします。

2. 選挙細則の改正

1) 第6条2項の立候補届の提出方法について、公正を明確にするため持参は受け付けていないので削除する。

2. 立候補届等は所定の書式を用い、郵送または持参、電磁的方法のいずれかによるものとする。

2) 代議員選挙においては地方支部区の順位付けの必要なくなったのでその文言を削除する。

第8条 選挙管理委員会は速やかに立候補者名簿を作成し、地方区においての投票の有無を確定する。

3) 理事会での承認の後、付則（改正）に以下の文言を加える。

・2014年4月5日一部改正

2013年度事業経過報告

1. 報告事項

1) 会員の動静

2014年4月末現在の会員は、賛助会員27社、名誉会員66名、正会員3729名（うち院生割引99名、学部割引7名）、会員総数3822名、2013年4月末と比べて54名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者 168（賛助 1社、正会員 167名〔うち院生割引 107名、学部割引 20名〕）

退会者 129（賛助 0社、正会員 129名〔うち院生割引 12名、学部割引 0名〕）

除籍者 73（正会員 73名）

逝去者 20（名誉会員 3名、正会員 17名）

名誉会員：垣見俊弘（2013/7/1）、奈須紀幸（10/3）、北川芳男（12/9）

正会員：小針博通（2005/6/18）、南里宗弘（2011/6/15）、西木敏夫（2013/1/30）、竹内清和（5/6）、沢野 弘（5/9）、鈴木尉元（5/13）、福田理（6/3）、佐々木辰雄（6/24）、大庭 昇（/26）、西澤徳雄（8/7）、小池一之（8/23）、関戸信次（9/5）、的場保望（9/18）、久保篤規（12/15）、堀越孝昌（2014/1/6）、服部陸男（3/13）、鹿園直建（4/22）

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2013年度定時総会>

日時：2013年5月18日 12:30～14:00

会場：北とびあ 第2研修室

議決権のある社員総数 133名（定足数：

67名), 議決権の数 133個
 出席社員数 (委任状および議決権行使書提出者を含む) 105名,
 議決権の総数 105個, 出席理事 33名,
 出席監事 1名
 審議事項: 1) 2012年度事業報告, 2) 2012年度決算報告, 3) 選挙規則の改正, 4) 2013年度事業計画, 5) 2013年度予算案
 いずれの議案も賛成多数で承認。
 <委員会等の開催>
 ・執行理事会 (11回) 議事内容, 報告等については, 随時HP, ニュース誌に掲載
 ・理事会 (4回) 議事内容, 報告等については, 随時HP, ニュース誌に掲載
 ・その他委員会 (メールによる会議を含め, 随時開催)

3) 学会の行事・事業
 1. 日本地質学会第120年学術大会
 会期: 2013年9月14日~16日
 会場: 東北大学川内北キャンパス
 参加者: 983名 (会員811名, 非会員172名)
 ・一般発表: 615件 (口頭372件, ポスター243件)
 ・シンポジウム: 2件 (うち1件は一般公開, 14講演)
 ・アウトリーチセッション: ポスター6件
 ・緊急展示 (ポスター発表): 1件
 ・優秀ポスター賞の授与: 11件
 ・見学旅行: 実施12コース
 ・ランチョン: 専門部会を中心に12件
 ・夜間小集会: 10件
 ・原子力規制委員会の評価会合についての意見交換会: 参加者: 105名
 ・若手会員のための業界研究サポート: 2013年9月15日 参加企業・団体: 8社
 <日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>
 日時: 9月14日 (土), 会場: 東北大学川内北キャンパスマルチメディア棟MMホール
 ・来賓挨拶 福村裕史 (東北大学大学院理学研究科長)
 ・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ 尾上哲治 (熊本大学)
 「放散虫革命ジュニア世代のジュラ紀付加体地質学」
 ・日本地質学会棚山雅則賞受賞スピーチ 岡本 敦 (東北大学)
 「岩石組織とモデルと」
 ・日本地質学会賞受賞記念講演 井龍康文 (東北大学) 「細かい観察・分析は地球環境科学を進展させるかー私の地球科学感ー」
 乙藤洋一郎 (神戸大学) 「古地磁気学と地質学」
 <年會関連行事>
 ・地質情報展2013みやぎー大地を知って明日を生かすー 2013年9月14日~16日, 参加者: 2,100名
 ・市民講演会「災害に備える安全な社会とはー求められる発想の転換と主体性ー」 2013

年9月16日, 参加者: 150名, 講師: 柳田邦男
 ・震災復旧・復興プラン (2012年度公募) 研究事業報告 2013年9月15日, ポスター発表1件 (R19-P-2)
 ・地学教育委員会
 小さなEarth Scientistのつどい~第11回小・中・高校生徒地学研究発表会: 2013年9月15日, 参加校9校, 1団体, 16件, うち3件に優秀賞を, 3件に奨励賞を授与.
 第12回理科教員対象見学旅行: 2013年9月14日, 「C班: 仙台の大地の成り立ちを知る」
 案内者: 宮本 毅・蟹澤聰史・根本 潤・石渡 明
 2. 地質の日 本部イベント (日本応用地質学会との合同行事)
 ・街中ジオ散歩 in Tokyo「石神井川がつくる地形の移り変わり」と地質」徒歩見学会: 2013年5月12日, 参加者39名 (うち小学生2名), 共催: 深田地質研究所, 後援: 東京都地質調査業協会, 協力: 日本地質学会関東支部, 見学コース: 東京都北区田端・上中里・王子界限 (JR王子駅西側の台地上に発達する石神井川, 逆川付近), 講師: 池田 宏氏, 中山俊雄氏
 ・第4回惑星地球フォトコンテスト表彰式: 2013年5月18日, 北とびあ, 審査委員長: 白尾元理
 ・惑星地球フォトコンテスト入賞作品巡回展示
 埼玉県立 自然の博物館: 2013年5月25日 (土) ~ 6月9日 (日)
 兵庫県立 人と自然の博物館: 2013年7月6日 (土) ~ 8月4日 (日)
 地質情報展 (仙台大会): 2013年9月14日 (土) ~ 9月16日 (月)
 あいちサイエンスフェスティバル: 2013年9月28日 (土) ~ 11月4日 (月)
 奥出雲多根自然博物館: 2014年1月2日 (木) ~ 2014年2月3日 (月)
 3. 地質調査研修
 研修地域: 「千葉県君津市及びその周辺地域 (房総半島中部域)」
 春季: 2013年5月27日~2013年5月31日
 秋季: 2013年11月18日~2013年11月22日
 参加者: 12名 (各季とも6名ずつ)
 共催: 産業技術総合研究所地質調査総合センター, 協力: 日本地質学会関東支部
 講師: 徳橋秀一, 辻野 匠 [春季], 納谷友規 [秋季] (産業技術総合研究所)
 4. 地質学者に答えてもらおう (2012年3月~運用開始)
 地質学とそれに関連する地学の分野の身近なことから地球の歴史に関することまで, 一般のかたが疑問に思うことにたいして, 質問受付コーナーを設けてから丸2年が経過. 運用開始からの質問件数の総数は56件 (うち, 2013年度中に届いた質問は25件). これまでの質問とその答えは学会HPにて公開中.

4) 出版物の刊行
 <地質学雑誌>
 ・119巻4号 (2013年4月) ~ 120巻3号 (2014年3月) を刊行した. 総ページ数は689ページ.
 ・地質学雑誌補遺: 仙台大会巡検案内書 CD-ROM版 (8月号)
 <日本地質学会ニュース>
 ・16巻4号 (2013年4月) ~ 17巻3号 (2014年3月) を発行した. 総ページ数は388ページ.
 <Island Arc>
 ・Island Arc 編集委員会の編集により, Wiley社より Vol.22, Issue 2 ~ Issue 4, Vol.23, Issue 1 を刊行した. 総ページ数は490ページ.
 <ジオルジュ>
 ・前期号 (2013年5月), 後期号 (同年11月) を発行.
 <リーフレット>
 ・たんけんシリーズ4「富士山青木ヶ原溶岩のたんけんー樹海にかくされた溶岩の不思議ー」, 2014年3月31日発行.
 <その他>
 ・地学を楽しく! ジオツアー・ジオパーク・地学オリンピック (電子書籍: Amazon Kindleストア, PDF版: ジオストア), 2013年12月刊行.
 ・地球全史スーパー年表 (岩波書店, 日本地質学会監修), 2014年2月18日刊行.

5) 関連外部委員会への協力
 下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて, これまでに引き続きそれぞれの活動, 関連学会の発展と連携に協力した.
 日本地球惑星科学連合: 評議員 (石渡明), 連絡委員 (西 弘嗣), プログラム委員 (大坪 誠, 星 博幸), キャリアパス支援小委員会委員 (佐々木和彦), 環境・災害対応委員会-災害の委員 (川畑大作), 環境・災害対応委員会-環境の委員 (小荒井衛), 学術出版委員会委員 (井龍康文), 教育問題検討委員会 (矢島道子, 芝川明義, 中井睦美, 渡邊正人), JpGU新ジャーナル発行のための編集委員 (井龍康文), 編集運営会議委員 (ウォリス サイモン), 自然史学会連合 (斎木健一), 地質技術者教育委員会 (山本高司), 地質の日事業推進委員会 (委員長: 平田大二, 副委員長: 中澤 努), アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会 (運営委員, 山口耕生), 日本ジオパーク委員会 (委員 高木秀雄), 産総研地質調査総合センター-JIS委員会 (学会委員, 斎藤靖二), (NPO) 地学オリンピック日本委員会広報小委員会 (坂口有人), 地質・地盤情報活用推進に関する法整備推進協議会 (委員, 小嶋 智, 利活用WG: 松浦一樹, 広報WG: 澤口 隆), 放射性廃棄物の地層処分技術WG (委員, 渡部芳夫), など.

6) その他報告事項(主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2013年度内において承認したもの)※そのほかはNews誌、HPに掲載の執理事務会議事録、理事会議事録参照。

＜他学協会などからの依頼＞

- ・朝永振一郎記念第8回「科学の芽」賞(筑波大学)の後援。
- ・三浦半島活断層調査会、地質の日記念観察会「深海から生まれた城ヶ島」(2013年5/11日)の後援。
- ・群馬県立自然史博物館第43回企画展「甦れ! カミツキマッコウ 古代ゾウ～巻頭に眠る太古の生き物たち～」(2013年7/13-9/1日)の後援。
- ・第6回地質の日記念&南紀熊野ジオパーク認定応援イベント2件の後援。
宇久井ビジターセンター、地玉の浜のオーソコップアイト探し(2013年5/11日)。
近畿地方環境事務所、ジオパークをめざして川舟で下る熊野川(2013年5/12日)。
- ・第四紀学会、国際第四紀学連合(INQUA)第19回大会(2015年5/27-8/2日、名古屋国際会議場)の共催。
- ・日本地球化学会、第60回年会(2013年9/11-13日、筑波大学)の共催。
- ・科学教育研究協議会、第60回全国研究大会(2013年8/2-4日、岩手県北上市)の後援。
- ・日本科学技術振興財団、青少年のための科学の祭典2013(2013年5/19-2014年3/31日)の後援。
- ・ゼオライト学会、第29回ゼオライト研究発表会(2013年11/27-28日)への協賛。
- ・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館、企画展示「微化石展―地層の中の小さな芸術品―」(2013年7/17-8/30日)の後援。
- ・室戸ジオパークサマースクール2013実行委員会、同サマースクール(2013年8/8-9日)への後援。
- ・第11回高校生科学技術チャレンジJSEC2013の後援(作品募集期間:2013年9/1-10月上旬)。
- ・第2回G-EVER国際シンポジウム、ならびに第1回IUGS・日本学術会議国際ワークショップ(2013年10/19-20日、仙台市情報・産業プラザ)の共催。
- ・蒲郡市生命の海科学館、地質学会の第4回惑星地球フォトコンテスト入賞作品展(2013年9/28-11/4日)の共催。
- ・第39回リモートセンシングシンポジウム(2013年11/15日)への協賛。
- ・三重県環境・生活部新博物館整備推進プロジェクトチーム、公開シンポジウム「新第三紀の終焉と第四紀の始まり―東海層群から読み解く気候変動」(2013年11/10日、三重県総合博物館)の共催。
- ・地質汚染―医療地質―社会地質学会主催「第23回環境地質学シンポジウム」(2013年11/29-30日、産業技術総合研究所共用講堂)

に対し、環境地質部会が共催。

- ・山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」(2013年10/26-27日)の後援。
 - ・こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、第14回子供のためのジオ・カーニバル(2013年11/2-3日、大阪市立科学館)の後援。
 - ・第4回日本ジオパーク隠岐大会組織委員会、同大会(2013年10/15-18日)の後援。
 - ・NPO法人日本地質汚染審査機構、第24回地質汚染調査浄化技術研修会(2013年11/22-24日)に対し、環境地質部会が共催。
 - ・IGCP608 第2回国際シンポジウム「白亜紀のアジア_西太平洋地域の生態系システムと環境変動」(代表:安藤寿男, 2014年9/6-8日、早稲田大学大隈講堂小講堂)の共催。
 - ・公社)日本アイソトープ協会、第51回アイソトープ・放射線研究発表会(2014年7/7-9日、東京大学弥生講堂)の共催。
 - ・主催:IUGS-GEM日本支部/IUGS-GEM人口地層と地質汚染WG/山形大学、第2回人口地層と地質汚染国際シンポジウム(2013年12/1-4日)にたいし、環境地質部会が共催。
 - ・2014年度の地震火山子どもサマースクール(島原半島ジオパーク, 2014年8/2-3日開催)の共催。
 - ・地球化学会、ゴールドシュミット会議2016(国内組織委員長:益田晴恵, 2016年6/26-7/1日、パシフィコ横浜)の共催。
 - ・奥出雲多根自然博物館、地質学会の第3・4回フォトコンテスト入選作品展示会(2014年1/2-2/3日)の共催。
 - ・地学オリンピック日本委員会、地学オリンピックのキャラクターデザイン募集コンテスト(中高生を対象)の共催。
 - ・堆積学会、“2014 Distinguished International Lecture for The Geological Society of America (GSA)”に選出されたMajorie Chan教授(ユタ大学)の講演会(東京:2014年5/9日、京都:5/11日)の共催。
 - ・2014地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展(2014年10/15-17日、東京ビッグサイト)への協賛。
 - ・科学教育研究協議会、第61回全国研究大会(2014年8/2-4日、港区正則高校)の後援。
 - ・Techno-Ocean2014(2014年10/2-4日、神戸国際展示場)への協賛。
- ＜他学協会などへ依頼＞
- ・第120年学術大会:仙台大会の巡検(プレ:9/13日、会期中:9/14日、ポスト:9/17-18日)について、関連学協会16団体に協賛を依頼し、いずれの学協会からも承認された。
 - ・「2013年度秋季地質の調査研修」(2013年11/18-22日実施、講師:徳橋秀一・納谷友規(産総研))について、産業技術総合研究所あて共催を依頼し承諾された。
 - ・「2014年度春季地質の調査研修」(2014年

5/12-16日実施予定、講師:徳橋秀一・工藤 崇(産総研))について、産業技術総合研究所あて共催を依頼し承諾された。

- ・第121年学術大会:鹿児島大会のセッション共催:堆積地質部会に関わる4セッションについて、石油技術協会探鉱技術委員会と日本有機地球化学会へ共催を依頼し承諾された。

R9:堆積物(岩)の起源・組織・組成/R10:炭酸塩岩の起源と地球環境

R11:堆積相・堆積過程/R12:石油・石炭地質と有機地球化学

7) 支部の活動

＜北海道支部＞

1. 2013年度「地質の日」記念展示(2013年4月23日～6月2日)
 - ・北海道大学総合博物館企画展示「豊平川と共に―その恵みと災い」。北海道大学総合博物館・日本地質学会北海道支部・日本応用地質学会北海道支部・北海道応用地質研究会・北海道地質調査業協会・(独)産総研地質調査総合センター・(地独)北海道立総合研究機構地質研究所・札幌市博物館活動センターとの共催。(財)宇宙システム開発利用促進機構・北海道大学附属図書館・北海道大学文書館などの協力。
 - ・市民対象の地質巡検「札幌のメモを訪ねる」を実施(5月18日)。参加者30名。
 - ・土曜市民セミナー:「豊平川がつくりだした自然景観」(5月11日)講師:前田寿嗣(札幌市立柏中学校)北海道大学総合博物館。
2. 北海道支部総会・支部例会
 - ・総会(2014年3月8日)於北海道大学理学部。出席者18名、委任状7名、計25名
 - ・例会(個人および招待講演会;2013年4月27日)於北海道大学理学部。参加者60名、個人講演10件、招待講演1件。
招待講演会「原子力発電所と断層」(藤本光一郎〔東京学芸大・教授〕)。その後、同テーマで討論会を実施。
3. 北海道地質百選検討
 - ・ウェブ運用:公開済みジオサイト数は401カ所(2014年3月1日現在)に達した。豊平川、札幌西方の山々、積丹、礼文島、支笏カルデラの5ヶ所のオンライン北海道ジオパーク(OHG)を公開中。
 - ・「北海道地質百選(仮称)」の出版:2014年2月に一次原稿が完成し北大出版会へ提示、北大出版会からの見本体裁の指示を待っている状況。2014年出版を目指して準備。
4. ジオパーク支援活動
 - ・世界ジオパークネットワーク(GGN)の1地域(洞爺湖有珠山ジオパーク)の再審査、日本ジオパークネットワーク(JGN)の2地域(三笠および鹿追ジオパーク)の新規加盟審査が実施され、それぞれ再加盟、新規加盟が承認。支部支援委員は2ジオパークについて審査受け入れ側、審査実施

側として対応。

- ・旭川と八雲にてジオパークを目指した動きがあり支援。中頓別地域でジオパーク構想に関連する事業に協力。

<東北支部>

1. 東北支部2012～2013年度総会・講演会（2014年3月1日（土））、於山形大学小白川キャンパス
- ・総会（13:00～）：出席者15名，委任状14名，計29名。
- ・講演会（14:15～）：口頭発表10件，ポスター発表12件。
2. 2014年度・2015年度の事務局は，岩手大学が担当。

<関東支部>

1. 地質技術伝承講演会（4月13日，会場：北とびあ）
「土石流の実態と防災対策」（講師：今村遼平，アジア航測㈱顧問），共催：関東地質調査業協会，参加者：60名
2. 地質見学会
- ・第三回ミニ巡検 房総南東部の正断層群（5月26日，27日），参加者：17名，案内者：小玉喜三郎・衣笠善博（元産総研），岩本広志（関東天然瓦斯開発㈱），宮内崇裕（千葉大学）
- ・第四回ミニ巡検 丹沢（11月30日，12月1日），参加者：15人，案内者：谷健一郎（国立科学博物館），桑谷 立（東北大学）
- ・塩原化石教師巡検 御坂・櫛形山地黒鉱（8月7-9日），参加者：8名，案内者：青島陸治（元栃木県博）
- ・富士山巡検 富士山北麓周辺（11月3-4日），参加者：29名，案内者：千葉達朗（アジア航測㈱）
3. 緊急研修会
地表付近の地質学的調査における応用地質学的・土土地質学的留意点，日大文理学部（7月27日），参加者107人，講師：山崎孝成（国土防災㈱），北詰昌樹（東京工業大学）見掛信一郎（日本原子力研究開発機構），田中耕一（鹿島建設㈱）
4. シンポジウム
第二回地質研究サミット 伊豆衝突帯地質研究サミット，横浜国立大学（11月23-24日）参加者：170名
5. フィールドキャンブ
千葉県鴨川市清澄東大演習林（8月19～24日と10月26日），参加者学生4名
6. 2016年大会準備
2016年大会第一回準備会，日大文理学部（2月24日）
7. 支部活動
- ・支部総会（4月8日，会場：北とびあ）：活動報告，会計報告，活動計画，予算案
- ・支部功労賞授与（2団体）：埼玉県立自然の博物館，早稲田大学高等学院理科部地学班
- ・幹事会：10回開催（1回/月程度）
- ・後援 秩父ジオパークジオツアー（6月16日），茨城大学液状化フォーラム（3月8

日）

- ・協力 本会地質の日イベント街中ジオ散歩，地質調査研修春季・秋季

<中部支部>

1. 地質の日関連イベント（5月10日（金），名古屋大学博物館）
特別講演会「日本の地質の読み方・使い方・地球をよく知って上手につきあうための基本情報」講師：齋藤 真
2. 中部支部総会（6月29日（土），石川県白山市交流センター）
3. 講演会等（6月29日（土），石川県白山市交流センター）
テーマ1：自然災害と向き合うために（7件），テーマ2：北陸，そして日本の構造発達史（4件），ポスター発表（15件），懇親会，参加者約50名
4. 地質巡検（6月30日（日）），白山手取川ジオパーク（共催：白山手取りジオパーク推進協議会，案内者：森下知晃，日比野剛，参加者：15名）

<近畿支部>

1. 2013年度支部体制
支部長：宮田隆夫（神戸大学），代表幹事：三田村宗樹（大阪市大），行事：小林文夫（兵庫県立人と自然の博物館），会計：大串健一（神戸大学），庶務：竹村静夫（兵庫教育大学），幹事：奥平敬元（大阪市大），里口保文（滋賀県立博物館），和田稔隆（奈良教育大学），田中里志（京都教育大学），此松昌彦（和歌山大学）
2. 行事報告
- ・地質の日イベント
第29回地球科学講演会「大阪平野の地盤環境と地盤災害」（2013年5月12日（日），大阪市立自然史博物館講堂，講師：北田奈緒子（一般財団法人地域地盤環境研究所主席研究員），主催：地球団体研究会大阪支部，日本地質学会近畿支部，大阪市立自然史博物館

<四国支部>

1. 2013年度支部体制
支部長：石田啓祐，幹事：榊原正幸（事務局長），村田明広，西山賢一，寺林 優，近藤康生，奈良正和，佐野 栄（事務局：支部HP）
2. 行事報告
- ・第13回日本地質学会四国支部総会・講演会（2013年12月21日（土），愛媛大学総合情報メディアセンター・メディアホール），参加者：56名，個人講演：口頭発表12名／ポスター発表17名

<西日本支部>

1. 2013年度の支部体制
支部長：小林哲夫，幹事：清川昌一・早坂康隆・仲谷英夫・磯部博志・亀井淳志・脇田浩二・石原与四郎・川村喜一郎（事務局）・松本幸英・木戸道男・清崎淳子，監事：武田賢治
2. 行事報告
- ・第165回西日本支部例会・2013年度総会

日時：平成26年2月22日（土），場所：佐賀大学（本庄キャンパス）
講演件数：口頭講演 10件，ポスター発表 10件
後援行事等 長岡信治シンポジウム（平成25年6月8-9日），『2013年「地質の日」身近に知る「くまもとの大地」』企画（平成25年5月11日（土））

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

- 1) 理事会議長・副議長の選出。
議長：松田博貴，副議長：久田健一郎
- 2) 各賞選考の運営規則第16条2項並びに2項3号・各賞選考規則7項2号および9項2号の改正案と各賞選考委員会への申し送り事項を承認。
<運営規則第16条2項並びに2項3号の一部改正>
(表彰) 第16条2 表彰の名称および内容は次のとおりである。なお，地質学雑誌及びIsland Arc に掲載された学術的に独創性のあるすべての著作を論文と呼ぶ。
(3) 日本地質学会Island Arc 賞：Island Arc 誌に発表され，世界の地質学の発展に貢献した優れた論文（総説を含む）。著者は会員・非会員を問わず，共著の場合は全員を受賞者とする。
<各賞選考規則7項2号および9項2号の一部改正>
7. 日本地質学会論文賞の受賞対象は次のとおりとする。
2) 募集開始年9月までの過去3年間にIsland Arc に発表された，筆頭者が地質学会正会員による論文。
9. 日本地質学会研究奨励賞の受賞対象および資格者は次のとおりとする。
2) 募集開始年9月末日で満35才未満の正会員，筆頭著者であれば共著でもよい。
- 3) 執行理事職務分担の変更。保柳康一執行理事の（社会貢献部会と）編集出版部会の兼務について承認。
- 4) 名誉会員の制度のあり方と選考プロセスに関する申し合わせ事項を承認。
- 5) 2013年度総会において選挙規則改正が議決承認されたことに伴い，既に（2012/12月）理事会において改正案承認済みの関連選挙細則の改正を了承。
- 6) 原子力規制委員会の「発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる規制基準」策定に係わり，「敷地内及び敷地周辺の地質・地質構造調査に係る審査ガイド（案）」の「断層活動性評価」と「断層破碎物質」に関する記載に対し，パブリックコメントを提出。
- 7) Island Arc誌の雑誌名称変更：編集委員等による投票の結果「Island Arc」を継続する。
- 8) 中期ビジョンWG委員の立ち上げ：2013年5月

委員：伊藤喜宏（東北大），内野隆之（産総研），亀高正男（ダイヤコンサル），須藤斎（名古屋大），須藤 宏（応用地質），高桑祐司（群馬県立自然史博物館），田村嘉之（千葉県環境財団），棟上俊二（福岡教育大），西川 徹（海洋研究開発機構），丹羽正和（原子力開発機構），藤原 治（産総研），渡来めぐみ（茗溪学園），井龍康文（東北大学），坂口有人（山口大学），山本高司（川崎地質）

9) 文部科学省「一家に1枚」ポスターの企画応募を承認。→ 結果は不採択。

10) 地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会，WG委員：利活用WG：松浦一樹（ダイヤコンサルタント），広報WG：澤口 隆（東洋大）の推薦を了承。

11) 125周年事業準備委員会の立ち上げ：2013年5月
委員長：矢島道子，委員：永広昌之，宮下純夫，佐々木和彦，天野一男

12) 2014年度の選挙立会人として会員2名を選出した。巖谷敏光（GSJ），高橋 聡（東大）

13) 優秀ポスター賞の審査方法の簡略化を了承。

14) 資源エネルギー庁廃棄物対策室より放射性廃棄物の地層処分技術WG（仮称）委員の推薦要請があり，渡部芳夫副会長を推薦。

15) 朝日新聞出版社分冊百科シリーズの読者プレゼント：学会仕様のフィールドノートの提供。

16) 大韓地質学会の年会（10月23日-25日，済州島）への招待：石渡会長とウォリス副会長が訪問。

17) 2014年以降の年会開催地の決定：
2014年 西日本支部：鹿児島大学（2014年9月13日～15日）
委員長：小林哲夫，事務局長：仲谷英夫，巡検担当：井村隆介
2015年 中部支部：信州大学
2016年 関東支部：日本大学

18) 2014年度各賞選考委員会委員長は委員間の互選により，永広昌之理事が選出された。

19) 東レ科学技術研究助成へ1件の推薦を承認。

20) 日本地球惑星科学連合の環境災害対応委員の交代：横山俊治会員の後任として川畑大作会員が応用地質部会から推薦され承認。

21) 地球惑星科学参照基準（案）に関するパブリックコメントを学術会議大学教育問題分科会（西山忠男委員長）に提出。

22) 地学オリンピック日本委員会より予選問題の作題委員に委員1名を推薦。

23) 山口・島根豪雨災害（2013年7/28）に対し，「山口・島根豪雨地質災害調査団」（坂口有人・川村喜一郎両会員その他山口大関係者）を学会主導の調査団として承認。

24) 選挙管理委員の選出：2014年度代議員および役員選挙管理委員の承認。委員長は互選。
委員氏名：阿部なつ江（委員長），田口公則，納谷友規，藤井幸泰，山口飛鳥

25) 学術大会講演申込異議申し立てに関する処理機構規則の改正を承認。任意団体からの規則の文言を一部修正。
日本地質学会 → 一般社団法人日本地質学会：規則名称，第1条，第2条
規約 → 規則：第1条
評議員会 → 理事会：第4条1項・2項（2）・4項・5項
附則追加：法人の規則として一部改正

26) ロンドン地質学会との学術交流協定締結（8月8日）を承認。日英交流400年にちなみ双方がプレスリリースを行った。

27) 吉田 勝勝集代表「地学を楽しく」の電子図書刊行を承認。

28) 地質学雑誌投稿編集規則の改正：図版廃止の規則改正を承認。
○地質学雑誌投稿編集規則の変更（8カ所）
G. 日本語の原稿の書き方
5. 図・表 → 図版を以下のように定める。
1) 口絵以外の投稿原稿の図・写真・表の類を次の3種類に分け，それぞれ番号をつける。
c. 図版（pt）：通しページを付けない独立のページとして印刷される写真。
2) 図・表 → 図版は別紙とし，1枚ごとに本誌からなるべくはなして，著者名，図・表 → 図版の番号を略記する。
4) 図・表・図版ともに，印刷したときの品質が鮮明になるように……（以下略）
6) 図版の原稿を原図で提出する場合は，そのまま写真製版できるように，1ページの形（印刷面は16.5×24.0cm）に調和させ，白い台紙に写真を貼る。
7) → 6) に繰り上げ 口絵・図・表 → 図版中の文字およびこれらに付帯する説明文（キャプション）は英語とする。……（以下略）
○地質学雑誌オープンファイル掲載細則の変更（1カ所）
1. 地質学雑誌オープンファイル（以下，オープンファイルとする）は，日本地質学会がその著作権を……（中略）……無償で配布されるものとする。したがって，……（中略）……別途指定されたオープンファイル番号と付図（Fig.）付表（Table），図版（Pt.）番号等により表示される。

29) 「県石」に関する普及書を作成すること，ホームページ上で意見を募るなどの準備を開始することを承認。選定にあたっては支部に協力を要請。

30) 文科省科学技術・学術審議会地学分科会より「災害軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について（中間まとめ）」の意見照会に対し，学会として意見を提出。

31) 地質の日事業推進委員会の地質学会推薦委員：継続して中澤 努理事を推薦（副委員長）。委員長は平田大二理事が継続。

32) 鹿児島大会の運営委託会社の選定：アカデミックブレインズへ委託することを承認。

33) 2014年地球惑星科学連合大会の環境・災害対応委員会によるセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？—東日本大震災の教訓」の発表者に，高木秀雄理事を推薦。

34) 2015年 GSA米国地質学会の海外大会と地質学会の共催にたいし，地惑連合も共催又は同時開催することに賛同が得られた。また，GSA米国地質学会会長からも賛同が得られた。地質学会は，巡検の部分を担当（2015年5月下旬）。

35) 国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ「長瀬たんけんマップ」（代表 高木秀雄）を了承。

36) 地球全史スーパー年表（著者：清川昌一・伊藤孝・池原実・尾上哲治）の刊行：岩波書店から，地質学会監修での出版を承認。

37) Island Arc誌のexecutive editorの交代：原 英俊会員の後任として，2014年4月より板本拓也会員に交代。

38) 各賞選考委員会（永広委員長）は各賞選考検討委員会を設置し，日本地質学会賞，国際賞，小澤賞選考の諮問をした。
・指定委員：宮下純夫，石渡 明，岩森光，木村 学，井龍康文（委員長），乙藤洋一郎，小嶋 智，山路 敦，前川寛和，伊藤 慎，海野 進，執行理事会の推薦委員：竹村厚司，竹村恵二。
・Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した。

39) 鉱物資源部会（代表：加藤泰浩会員）の設立を承認。

40) 2013年度名誉会員推薦委員会委員の選出：委員長；ウォリス サイモン
・階層別委員（前年に引き続き4名）：官公庁：栗本史雄（産総研），小中高教員：小尾 靖（相模原青陵高），会社松浦一樹（㈱ダイヤコンサルタント），大学：竹内 誠（名大）
・職責委員（7名）：支部長；竹下 徹，川辺孝幸，伊藤谷生，原山 智，宮田隆夫，石田啓祐，小林哲夫
・理事会推薦委員（1名）：宮下純夫理事

41) 口絵の定義変更にもともなう『地質学雑誌投稿編集出版規則，B-1-f』の改正を承認。地質学雑誌投稿編集出版規則 B.地質学雑誌の内容 f
f. 口絵（Pictorial）：雑誌の巻頭を飾る顕著な地質現象，露頭，地形，岩石，鉱物，地質環境などの未公表のカラー写真とその解説 → 【改正後】未公表のカラー写真，短い解説を付す。

42) 2014年度総会開催日程：2014年5月24日（土）に開催することを承認。

43) 山田科学振興財団研究助成へ3件の推薦

を承認。

- 44) ジオルジュライターとして新たに、久松和恵氏（非会員、JAMSTEC）、山田健太郎氏（会員、東大総合文化研究科）が加わった。
- 45) 鹿児島大会の巡検について、関連学協会に巡検協賛を依頼する。
- 46) 学術会議23期連携会員候補者の推薦：6名を推薦（同会議の要請により推薦者氏名等は非公表）。
- 47) ロンドン地質学会と共同の津波シンポジウムを開催することとした。
・第1回 鹿児島大会と同時期に開催（巡検は静岡、房総方面を予定）
・第2回 ロンドン（2015年9月25日を予定）
- 48) 総会関連行事（地質の日の行事とする）：日本地質学会公開講演会「日本の地質学：最近の発見と応用」（Recent progress in geological science）：4会員（杉田律子、坂口有人、佐藤峰南、西岡芳晴）による招待講演を了承。
- 49) 自然史学会連合講演会（2014/11/23）における体験型講座の担当候補者の推薦依頼：長谷川 健会員を推薦、仮講座テーマ「食材を使って噴火体験」。
- 50) 国際地学オリンピック組織委員会より、委員就任の要請：石渡明会長を推薦（任期：推薦された日から2017年3月31日まで）。代表者変更の際は委員も交替となる。
- 51) 電子書籍の販売について：PDF版は学会のオンラインストアから販売（キンドルと同様の価格）。価格はページ割で販売。
- 52) 富士山青木ヶ原溶岩のたんけんマップの印刷部数を3000部とする。
- 53) 杉並区立科学館廃止に対する要望書を杉並区長あてに送付。学会HP、News誌に掲載。
- 54) 事務所内の整備：震災時に半倒壊している書架、棚を廃棄し、新たに書架を4基設置する。整理にあたり、地質学雑誌の古い特集号と寄贈本（とくに雑誌類）の古いものを順次廃棄処分する。
- 55) 第5回フォトコンテストの審査結果について：最優秀賞1件、優秀賞2件、ジオパーク賞1件、入選10件を選出。
- 56) 「30th anniversary of the joint meeting of the two subcommittees; the structural geology subcommittee and the energy and resource subcommittee of the Geological Society of Korea」の招待に対して大藤 茂会員（構造地質部会）が訪問する。
- 57) 2014年5月、地質の日イベント：
・「街中ジオ散歩 in Tokyo—下町低地の地盤沈下と水と暮らし」(2014年5/10日、共催：応用地質学会)を実施。
・地下鉄銀座駅の通路コンコースでフォト

コンテスト作品を展示（2014年5/3-17日）。

- ・公開講演会「日本の地質学：最近の発見と応用（Recent progress in geological science）」の開催（2014年5/24日）。
- 58) 日比谷公園内（緑と水の市民カレッジ）にてフォトコンテスト作品展示（2014年7月）。財）東京都公園協会との共催予定。
- 59) 富士山・青木ヶ原たんけんマップの刊行：メール審議で刊行を承認。
- 60) 定款23条、33条および総会規則の改正を承認。【1号議案、2号議案】
- 61) 地質学雑誌投稿編集出版規則の改正について、新たに「講座（連載）」を原稿のカテゴリに加える等の改正案を承認。
- 62) 地質学会ロゴマークの使用規則案を策定し、承認した。
- 63) 「国立公園地質リーフレット（シリーズ）」および「国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ」の名称変更とそれに伴う細則改正を承認。
- 64) 選挙規則・選挙細則の改正を承認。【3号議案】
- 65) 2013年度事業報告・決算案を承認した。【4号議案】
- 66) 次の21名の会員を50年会員として顕彰することとした。
石川輝海、浦川洋一、大村一夫、小澤智生、加瀬靖之、神谷英利、小勝幸夫、小松正幸、斎藤靖二、沢田庄一郎、塩田次男、柴田賢、下西繁義、菅野耕三、高橋堅造、滝沢文教、中馬教允、都築 宏、波田重熙、早津賢二、山中 博
- 67) 2014年度事業計画および2014年度予算案を承認した。【6号議案、7号議案】
- 68) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。（推薦文は1号議案資料2 参照）
- ・日本地質学会賞（2件）
川幡穂高（東京大学大気海洋研究所）
対象研究テーマ：気候変動に対応した過去・現代の炭素を中心とする物質循環に関する地化学的研究
斎藤文紀（産業技術総合研究所地質情報研究部門）
対象研究テーマ：沿岸堆積システムと沖積層の地層形成に関する現行地質過程的研究
- ・日本地質学会国際賞（1件）
江 博明（JAHN, Bor-ming）(国立台湾大学)
対象研究テーマ：地球惑星物質の地質年代学、同位体・微量元素地球化学、地殻進化の研究
- ・日本地質学会小澤儀明賞（2件）
菅沼悠介（国立極地研究所地圏研究グループ）

対象研究テーマ：海底堆積物における古地磁気記録獲得機構と地磁気逆転年代の高精度化に関する研究

田村 亨（産業技術総合研究所地質情報研究部門）

対象研究テーマ：統合的な手法による沿岸域の地層と地形形成に関する研究

・日本地質学会 Island Arc 賞（1件）

授賞論文：Dapeng Zhao, M.Santosh and Akira Yamada, 2010, Dissecting large earthquakes in Japan: Role of arc magma and fluids, Island Arc, 19, 4-16.

・日本地質学会論文賞（1件）

田辺 晋・石原与四郎, 2013, 東京低地と中川低地における沖積層最上部陸成層の発達様式：“弥生の小海退”への応答, 地質学雑誌, 119, 350-367.

・日本地質学会小藤文次郎賞（1件）

野崎達生（海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域）

Nozaki, T., Kato, Y. and Suzuki, K., 2013, Late Jurassic ocean anoxic event: evidence from voluminous sulphide deposition and preservation in the Panthalassa, Scientific Reports, 3, 1889, doi: 10.1038/srep01889.

・日本地質学会研究奨励賞（3件）

細井 淳（茨城大学大学院理工学研究科）
対象論文：細井 淳・天野一男, 2013, 岩手県西和賀町周辺奥羽脊梁山脈における前期～中期中新世の火山活動と堆積盆発達史, 地質学雑誌, 119, 630-646.

上久保 寛（石油天然ガス・金属鉱物資源機構資源探査部）

対象論文：Kamikubo, H. and Takeuchi, M., 2011, Detrital heavy minerals from Lower Jurassic clastic rocks in the Joetsu area, central Japan: Paleozoic tectonics in the East Asian continental margin constrained by limited chloritoid occurrences in Japan, Island Arc, 20, 221-247.

武藤 潤（東北大学国際高等教育機構学際科学フロンティア研究所）

対象論文：武藤 潤・大園真子, 2012, 東日本太平洋沖地震後の余効変動解析へ向けた東北日本弧レオロジー断面, 地質学雑誌, 118, 323-333.

・日本地質学会表彰（1件）

西岡芳晴（産業技術総合研究所地質情報研究部門）

表彰業績：シームレス地質図配信システムの構築

69) 125周年記念行事について、記念事業の基本方針を承認。【8号議案】

70) 5月24日開催予定の総会議案の承認。

収 支 計 算 書

[自 2013年 4 月 1 日 至 2014年 3 月 31 日]

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
(単位：円)				
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	10, 000	5, 980	4, 020	
特定資産運用収入	10, 000	6, 489	3, 511	
会費収入	44, 020, 000	44, 907, 750	△ 887, 750	
事業収入				
出版事業収入	10, 050, 000	10, 113, 400	△ 63, 400	
年会開催事業収入	9, 250, 000	9, 278, 001	△ 28, 001	
普及事業収入	600, 000	583, 600	16, 400	
支部・部会等活動事業収入	800, 000	1, 534, 223	△ 734, 223	
受託事業収入	0	0	0	
地質調査研修事業収入	1, 200, 000	1, 440, 000	△ 240, 000	
事業収入計	21, 900, 000	22, 949, 224	△ 1, 049, 224	
補助金・寄付金等収入	1, 550, 000	1, 707, 590	△ 157, 590	
雑収入	240, 000	231, 779	8, 221	
事業活動収入計	67, 730, 000	69, 808, 812	△ 2, 078, 812	
2. 事業活動支出				
事業費支出				
出版事業費	17, 150, 000	17, 388, 593	△ 238, 593	
年会開催事業費	9, 250, 000	9, 146, 420	103, 580	
普及事業費	1, 555, 000	3, 239, 910	△ 1, 684, 910	
支部・部会等活動事業費	1, 760, 000	2, 065, 508	△ 305, 508	
研究奨励事業費	600, 000	480, 390	119, 610	
特別事業費	1, 000, 000	0	1, 000, 000	
受託事業費	0	0	0	
地質調査研修事業支出	1, 000, 000	1, 124, 830	△ 124, 830	
事業管理費	22, 561, 000	20, 774, 635	1, 786, 365	
事業費支出計	54, 876, 000	54, 220, 286	655, 714	
管理費支出				
人件費	8, 544, 000	8, 446, 125	97, 875	
旅費交通費	900, 000	819, 991	80, 009	
事務所賃借料	2, 375, 000	2, 639, 407	△ 264, 407	
事務諸費	5, 035, 000	4, 215, 193	819, 807	
雑費	710, 000	911, 241	△ 201, 241	
法人税等支出	70, 000	70, 000	0	
管理費支出計	17, 634, 000	17, 101, 957	532, 043	
事業活動支出計	72, 510, 000	71, 322, 243	1, 187, 757	
事業活動収支差額額	△ 4, 780, 000	△ 1, 513, 431	△ 3, 266, 569	

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
事業準備引当預金取崩収入	1, 500, 000	0	1, 500, 000	
年会開催費引当預金取崩収入	1, 000, 000	0	1, 000, 000	
普及書出版引当預金取崩収入	1, 200, 000	0	1, 200, 000	
125周年記念事業引当預金取崩し収入	300, 000	0	300, 000	
構造地質部会特別引当預金取崩収入	480, 000	0	480, 000	
投資活動収入計	4, 180, 000	0	4, 180, 000	
2. 投資活動支出				
退職手当引当預金繰入支出	0	1, 729	△ 1, 729	
年会開催補助費引当預金繰入支出	0	1, 218	△ 1, 218	
普及書出版引当預金繰入支出	0	114, 581	△ 114, 581	
125周年記念事業引当預金繰入支出	0	526	△ 526	
研究奨励引当預金繰入支出	0	368	△ 368	
投資活動支出計	0	118, 422	△ 118, 422	
投資活動収支差額	4, 180, 000	△ 118, 422	4, 298, 422	
III. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	△ 1, 631, 853	1, 631, 853	
前期繰越収支差額	25, 209, 494	25, 209, 494	0	
次期繰越収支差額	25, 209, 494	23, 577, 641	1, 631, 853	

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。

正味財産増減計算書

(自 2013年 4月 1日
至 2014年 3月 31日)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
(単位：円)				
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収入	5,980	7,190	△ 1,210	
特定資産運用収入	6,489	6,523	△ 34	
会費収入	44,907,750	44,740,350	167,400	
事業収入				
出版事業収入	10,113,400	13,601,418	△ 3,488,018	
年会開催事業収入	9,278,001	8,776,632	501,369	
普及事業収入	583,600	488,905	94,695	
支部・協会等活動事業収入	1,534,223	845,550	688,673	
受託事業収入	0	0	0	
地質調査研修事業収入	1,440,000	720,000	720,000	
事業収入計	22,949,224	24,432,505	△ 1,483,281	
補助金・寄付金等収入	1,707,590	1,736,882	△ 29,292	
雑収入	231,779	229,530	2,249	
経常収益計	69,808,812	71,152,980	△ 1,344,168	
(2) 経常費用				
事業費				
出版事業費	17,388,593	19,703,620	△ 2,315,027	
年会開催事業費	9,146,420	9,411,541	△ 265,121	
普及事業費	3,239,910	1,204,994	2,034,916	
支部・協会等活動事業費	2,065,508	1,946,811	118,697	
研究奨励事業費	480,390	456,240	24,150	
特別事業費	0	299,950	△ 299,950	
受託事業費	0	0	0	
地質調査研修事業費	1,124,830	507,335	617,495	
事業管理費	20,774,635	23,365,919	△ 2,591,284	
事業費計	54,220,286	56,896,410	△ 2,676,124	
管理費				
人件費	8,446,125	8,081,101	365,024	
旅費交通費	819,991	735,796	84,195	
事務所賃借料	2,639,407	2,610,373	29,034	
事務諸費	4,285,193	2,892,716	1,392,477	
雑費	911,241	577,569	333,672	
管理費計	17,101,957	14,897,555	2,204,402	
経常費用計	71,322,243	71,793,965	△ 471,722	
当期経常増減額	△ 1,513,431	△ 640,985	△ 872,446	

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
事業準備引当金取崩額	0	0	0	
年会開催引当金取崩額	0	0	0	
普及書出版引当金取崩額	0	0	0	
125周年記念事業準備引当金取崩額	0	0	0	
構造地質部会特別引当金取崩額	0	300,000	△ 300,000	
経常外収益計	0	300,000	△ 300,000	
(2) 経常外費用				
退職手当引当金繰入額	1,729	2,017	△ 288	
年会開催補助費引当金繰入額	1,218	1,222	△ 4	
普及書出版引当金繰入額	114,581	235,615	△ 121,034	
125周年記念事業準備引当金繰入額	526	527	△ 1	
研究奨励引当金繰入額	368	368	0	
経常外費用計	118,422	239,749	△ 121,327	
当期経常外増減額	△ 118,422	60,251	△ 178,673	
当期一般正味財産増減額	△ 1,631,853	△ 580,734	△ 1,051,119	
一般正味財産期首残高	57,209,494	57,790,228	△ 580,734	
一般正味財産期末残高	55,577,641	57,209,494	△ 1,631,853	
II. 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III. 正味財産期末残高	55,577,641	57,209,494	△ 1,631,853	

貸借対照表

2014年3月31日現在

科 目		(単位:円)	
当年度	前年度	増	減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	52,386	△	136,801
預金	54,800,974	△	2,291,895
未収金	142,000	△	16,000
立替金	0	0	0
仮払金	437,143		248,582
流動資産合計	55,432,503	△	2,196,114
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預金	30,000,000		0
基本財産合計	30,000,000		0
(2) その他の固定資産			
敷金・保証金	2,000,000		0
特定資産	32,547,275		60,251
事業準備引当預金	7,600,000		0
退職手当引当預金	8,669,588		1,729
年会費補助費引当預金	6,113,714		1,218
普及書出版引当預金	5,315,422		114,581
総目録刊行引当預金	2,641,094		526
研究奨励引当預金	1,845,879		368
構造地質部会特別引当預金	480,000		0
その他の固定資産合計	34,665,697		118,422
固定資産合計	64,665,697		118,422
資産合計			
	120,098,200	△	2,077,692
II 負債の部			
1. 流動負債			
預り金	324,112	△	95,511
未払金	0	0	0
前受金	31,530,750	△	468,750
流動負債合計	31,854,862	△	564,261
2. 固定負債			
引当金			
事業準備引当金	7,600,000		0
退職手当引当金	8,669,588		1,729
年会費補助費引当金	6,113,714		1,218
普及書出版引当金	5,315,422		114,581
総目録刊行引当金	2,641,094		526
研究奨励引当金	1,845,879		368
構造地質部会特別引当金	480,000		0
固定負債合計	32,665,697		118,422
負債合計	64,520,559	△	445,839
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
	0	0	0
2. 一般正味財産			
	55,577,641	△	1,631,853
正味財産合計	55,577,641	△	1,631,853
負債及び正味財産合計	120,098,200	△	2,077,692

財産目録

2014年3月31日現在

(単位:円)

科 目		金 額
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金 (現金：27,326円、切手25,060円)	52,386	
預貯金	54,800,974	
三井住友銀行神田駅前支店1711424(普通)	23,081,795	
みずほ銀行神田駅前2229416(普通)	12,113,704	
三菱UFJ銀行神田駅前1134781(普通)	697,950	
ゆうちょ銀行振替貯金8-28067	15,461,406	
ゆうちょ銀行52073562(普通)	3,446,119	
未収金 (アイランドアート購読料未収分)	142,000	
立替金	0	
仮払金 (労働保険料2012年度概算払い、鹿児島大会費用の一部)	437,143	
流動資産合計	55,432,503	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
預金 (みずほ銀行神田駅前支店 (定期) 6558120-1,2,5,6)	30,000,000	
基本財産合計	30,000,000	
(2) その他の固定資産		
敷金・保証金(井桁ビル預け)	2,000,000	
特定資産	(32,665,697)	
事業準備引当預金 (みずほ銀行神田駅前支店(定期)6558120-9)	7,600,000	
退職手当引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-1,6,7)	8,669,588	
年会費補助費引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-2)	6,113,714	
普及書出版引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-3,9)	5,315,422	
125周年記念事業引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-4)	2,641,094	
研究奨励引当預金 (三菱UFJ銀行神田駅前支店(定期)0022615-8)	1,845,879	
構造地質部会特別引当預金(みずほ銀行神田駅前支店(定期)6558120-10)	480,000	
その他の固定資産合計	34,665,697	
固定資産合計	64,665,697	
資産合計		120,098,200
II 負債の部		
1. 流動負債		
預り金 (社保料3月分、源泉税・地方税3月分)	324,112	
未払金	0	
前受金 (2014年4月以降の会費)	31,530,750	
流動負債合計	31,854,862	
2. 固定負債		
引当金	(32,665,697)	
事業準備引当金	7,600,000	
退職手当引当金	8,669,588	
年会費補助費引当金	6,113,714	
普及書出版引当金	5,315,422	
125周年記念事業引当金	2,641,094	
研究奨励引当金	1,845,879	
構造地質部会特別引当金	480,000	
固定負債合計	32,665,697	
負債合計		64,520,559
正味財産		55,577,641

計算書類に対する注記(2013年度)

1. 重要な会計方針

公益法人会計基準(平成16年10月)を採用している。

1) 引当金の計上について

- ・事業準備引当金: 将来的な事業, 前年度未完事業, 会員名簿出版, 大規模災害調査, 研究などのために引当。
- ・年会開催補助費引当金: 年会事業収支の余剰金を不足が生じた場合に備え引当。
- ・退職手当引当金: 期末要支給額を見込んで引当。
- ・普及書出版引当金: 地質学会名で出版社から刊行した出版物の著者からの印税寄付金を以後の普及書出版に備え引当。
- ・125周年記念事業準備引当金(総目録刊行費引当金を振替): 2018年に迎える125周年に備えて
- ・研究奨励引当金: 会員の研究奨励のために会員からの寄付金および必要に応じて引当。
- ・構造地質部会特別引当金: 旧構造地質研究会の残余金を暫定的に引当。

2) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産の残高状況は次のとおりである。

科 目	(単位円)		
	期首残高	当期増加額	当期減少額
預 金	30,000,000	0	0
合計(基本財産)	30,000,000	0	0

収支計算書に対する注記(2013年度)

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金、預金、未収金、立替金、仮払金、預り金、未払金、前受金を含める。
期末残高は下記に示すとおりである。

(単位円)		
科 目	前期末残高	当期末残高
現金(切手残高含)	189,187	52,386
預 金	57,092,869	54,800,974
未収金	158,000	142,000
立替金	0	0
仮払金	188,561	437,143
合 計	57,628,617	55,432,503
預り金	419,623	324,112
未払金	0	0
前受金	31,999,500	31,530,750
合 計	32,419,123	31,854,862
次期繰越収支差額	25,209,494	23,577,641

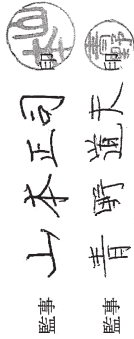
2. 次期繰り越し収支差額の内容は、次のとおりである。

以上

2013 年度 一般社団法人日本地質学会会計監査報告書

一般社団法人日本地質学会

会 長 石 渡 明 殿



監事

監事

2013 年度 (2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)、一般社団法人日本地質学会会計につ
いて、諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が
適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

1. 監査期日

平成 26 年 5 月 14 日

2. 監査対象

2013 年度 一般社団法人日本地質学会会計

2014 年度事業計画基本方針

2013年度事業実績概要

2011年3月11日に発生した東日本大震災は日本社会に深刻な影響を与えた。約3年後の現在も被災地はいまだ復興途上にあり、再建はなかなか進まない。その上に台風の豪雨により山口県・鳥取県や伊豆大島などで深刻な土砂災害が発生している。そのような状況の2013年度にあって、本学会は会員各位と各支部・部会などの努力により、以下に要約するような成果をあげることができた。

東日本大震災以後、地質学への社会的関心が高まっており、福島第一原子力発電所の事故を踏まえて全国各地の発電所敷地内の活断層を評価する原子力規制委員会の有識者会議が2012年に発足し、2013年度には敦賀と大飯についての評価がまとまり、本学会会長を座長とするピアレビューも行われた。本学会が推薦した有識者は国民注視の中で現地調査や報告書作成などの職務を行っている。また、福島第一からの汚染水流出が続く中で、核廃棄物の保管・最終処分が重要な政策課題になりつつあり、本学会の学術的貢献が期待されている。その中で立川断層の人工物との誤認問題が発生し、既往工事履歴の確認とともに現場での注意深い観察と土木施工に伴う都市部での地質調査能力の向上も求められることになった。

仙台での学術大会は、「東北、いま、たちあがる地質学」のテーマのもとに、公開シンポジウム「東日本大震災あの時、今、これから」、柳田邦男氏の市民講演会「災害に備える安全な社会とは」、原子力規制委員会の評価会合についての意見交換会、環太平洋オフィオライトに関する国際シンポジウムなどが、台風の直撃にもかかわらず盛会のうちに開催され、初の試みである巡検専用のトレッチ掘削を含む津波堆積物巡検や市民向けの仙台市内アウトリーチ巡検など、12コースの巡検も成功裏に行われた。本学会が共催して仙台市科学館で行われた地質情報展も盛況であり、また日本堆積学会との共催で行った津波堆積物ワークショップも盛況だった。今大会は、近年では最多の参加者・講演数を得て成功だったが、台風襲来のような緊急時の対応には問題が残った。

地質学雑誌は本学会の根幹をなす月刊学術誌であり、2014年の第120巻もほぼ順調に発行されている。今年度は、中国地方の新生界、構造地質学と応用地質学の接点、東北日本の火山の長期活動評価、3次元地質モデルなどに関する特集が刊行された。Island Arcは2013年1月の完全電子化後も順調に発行されている（紙媒体廃止）。今年度は高圧・超高压変成岩とジルコン年代学に関する特集が刊行された。同誌の新名称の公募を行ったが、従来の名称に愛着を示す意見が多く、名称はそのままとすることになった。また、本学会がサポートし英国地質学会が発行する「Geology of Japan」の執筆・編集作業が進

んでいる。

組織体制の充実としては、本学会に鉱物資源部会が新たに設立され、この分野が活発化しつつある。また、今年度の論文賞・奨励賞がゼロだったのは残念であり、来年度は奮って推薦していただきたい。普及活動に関しては、ジオパーク活動がさらに前進し、最初の認定から5年で国内の世界ジオパークは6地域（隠岐が新たに加わる）、国内ジオパーク総数は33となり（三笠、三陸、佐渡、四国西予、おおいた姫島、おおいた豊後大野、桜島・錦江湾、とかち鹿追の8ヶ所が新たに加わる）、飛躍的に増加しつつある。地学オリンピックも参加者が着実に増加しており、今年度も世界大会で金メダルを獲得した。リーフレットや電子書籍などの新しい企画が着実に進行している。書籍出版では、本学会編の地方地質誌が東北・四国を残すのみとなっており、一両年中の刊行でシリーズが完結する見込みである。地球史年表も出版された。また、地質の日の取り組みや惑星地球フォトコンテストが定着し、「友の会」や若手会員を主な対象とした情報交換サービス（SNS）「ちーとも」の利用が増加しつつある。本学会が一般に販売する広報誌「ジオルジュ」も順調に発行され、高い評価を得ている。

国内の関連業界や社会への対応としては、外部から本学会への業務の依頼や委託に対応できる体制になり、その取り組みが充実しつつある。また、地質調査研修を春・秋の2回実施した。

地学教育に関しては、新指導要領実施に伴い、地学教員採用が増加しつつある。日本学術会議等が検討していた大学における地球科学教育の参照基準の提案書策定に協力した。

国際対応としては、日英交流400年に当たり、英国のロンドン地質学会と学術交流協定を締結した。また、昨年の大阪大会で延長締結された学術交流協定に基づき、済州島で開催された大韓地質学会に本学会会長と副会長が出席し、交流を深めた。2013年10月に仙台で開催された自然災害に関するG-EVER・IUGSなどの共催シンポジウムとCCOP会議に学会代表を送り、本学会の取り組みについて講演した。

2014 年度事業計画概要

2014年度は以上の成果を踏まえて、特に以下に力点をおく。

1. 東日本大震災を踏まえた防災・減災に対する取り組み
 - 1) 地質学的観点からの調査・研究の推進
 - 2) 災害に関する地質学的知識や情報の提供・発信
 - 3) 自然災害に関する地学教育の推進
2. 鹿児島における学術大会を成功させるとともに、大規模自然災害や地学教育・アウトリーチなど、関連学協会との連携・協力を促進する場とする。ロンドン地質学会などと協力し、津波堆積物に関する国際シンポジウムを共催する。

3. 日本地質学の成果を世界に向けて効果的に発信するための書籍の刊行と英語ホームページの充実。完全電子化された、Island Arc は1.0以上のインパクトファクターを維持しているが、今後ホットな話題に関する特集号の企画等による掲載論文の質の向上や国内外の研究者への掲載論文の積極的な紹介を展開する。東アジアなどの各国の学会との連携・交流強化を図る。次年度の米国地質学会との共催シンポジウム・巡検実施に向けて準備を進める。

4. 2012年6月に改正された地質図の記号等に関する日本標準規格（JIS A0204）、ベクトル数値地質図に関するJIS A0205ならびに国際標準の整備に対応して、それらの普及と地層名登録の仕組みや日本語の地質学用語標準の整備を図る。
5. 地学教員および地学の科目を設置する学校的大幅増を目指し、関係機関への要望活動をおこなうとともに、地学教材の提供など、地学教員への支援を強化する。また、地学オリンピックへの支援を強める。
6. 一般人の地学に対する理解度を向上させるため、本学会のホームページ（HP）、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）「ちーとも」、広報誌「ジオルジュ」、リーフレット、フォトコンテスト、講演会などを通じ、社会への情報発信を強化する。また、ジオパーク運動への支援強化、重要な露頭の保全などに取り組む。「県の石」などの斬新な出版・アウトリーチ活動を通じて地質学のさらなる普及を図る。
7. JABEE を含めた地質技術者教育の充実に向けて、関連学会と協力・共同した取組を強化する。本年度には、支部や他学会・機関と連携し、国内での地質技術者にむけた研修事業等を企画、実施する。
8. 学会の組織活動を全般的に強化する。産学官が連携した学会運営体制の構築、支部や専門部会の活動の活発化、理事の役割の強化、会員サービスの強化（就職支援、地質技術者の継続的な専門教育（CPD）など）を図る。若手の人材育成とシニア人材の活躍の場を広げる。
9. 4年後の本学会設立125周年に向け、記念事業の計画を策定するなど、準備を本格的に始める。
10. 本学会の新しい中期ビジョン策定に向けて、議論を加速する。
11. 新会員の積極的勧誘、会費納入の督促、学会出版物の販売促進などにより、本学会の財政基盤を強化する。

以上

収 支 予 算 書

[自 2014年 4月 1日
至 2015年 3月 31日]

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
(単位：円)				
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	5,000	10,000	△ 5,000	
特定資産運用収入	5,000	10,000	△ 5,000	
会費収入	43,150,000	44,020,000	△ 870,000	
事業収入				
出版事業収入	8,170,000	10,050,000	△ 1,880,000	
年会開催事業収入	8,150,000	9,250,000	△ 1,100,000	
普及事業収入	600,000	600,000	0	
支部・部会等活動事業収入	1,660,000	800,000	860,000	
受託事業収入	0	0	0	
地質調査研修事業収入	1,200,000	1,200,000	0	
事業収入計	19,780,000	21,900,000	△ 2,120,000	
補助金・寄付金等収入	1,700,000	1,550,000	150,000	
雑収入	150,000	240,000	△ 90,000	
事業活動収入計	64,790,000	67,730,000	△ 2,940,000	
2. 事業活動支出				
事業費支出				
出版事業費	16,147,000	17,150,000	△ 1,003,000	
年会開催事業費	9,650,000	9,250,000	400,000	
普及事業費	2,827,000	1,555,000	1,272,000	
支部・部会等活動事業費	2,070,000	1,760,000	310,000	
研究奨励事業費	800,000	600,000	200,000	
特別事業費	900,000	1,000,000	△ 100,000	
受託事業費	0	0	0	
地質調査研修事業支出	1,110,000	1,000,000	110,000	
事業管理費	20,446,000	22,561,000	△ 2,115,000	注) 1
事業費支出計	53,950,000	54,876,000	926,000	
管理費支出				
人件費	8,152,000	8,544,000	△ 392,000	
旅費交通費	1,000,000	900,000	100,000	
事務所賃借料	2,703,000	2,375,000	328,000	
事務諸費	3,401,000	5,035,000	△ 1,634,000	
雑費	544,000	710,000	△ 166,000	
法人税等支出	70,000	70,000	0	
管理費支出計	15,870,000	17,634,000	△ 1,764,000	
事業活動支出計	69,820,000	72,510,000	△ 2,690,000	
事業活動収支差額額	△ 5,030,000	△ 4,780,000	△ 250,000	

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
事業準備引当預金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0	
年会開催費引当預金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0	
普及書出版引当預金取崩収入	500,000	1,000,000	△ 500,000	
125周年記念事業引当預金取崩収入	250,000	300,000	△ 50,000	
研究奨励引当預金取崩収入	800,000	0	800,000	
構造地質部会特別引当預金取崩収入	480,000	480,000	0	
投資活動収入計	5,030,000	4,780,000	250,000	
2. 投資活動支出				
退職手当引当預金繰入支出	0	0	0	
年会開催補助費引当預金繰入支出	0	0	0	
普及書出版引当預金繰入支出	0	0	0	
125周年記念事業引当預金繰入支出	0	0	0	
研究奨励引当預金繰入支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	5,030,000	4,780,000	250,000	
III. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	23,577,641	25,209,494	△ 1,631,853	
次期繰越収支差額	23,577,641	25,209,494	△ 1,631,853	

(注) 1. 各事業ごとの「事業管理費」を、抜き出して一括して表示している。

日本地質学会創立125周年 記念事業基本方針

2011年3.11東日本大震災は、地質学の重要性や必要性を改めて示す事となった（東日本大震災に関する地質学からの提言：ジオフラッシュNo.131参照）。また、異常気象による大規模自然災害の頻発や、資源・エネルギー問題の全世界的深刻化などもまた、今地球の営みについての理解を深める地質学の重要性を示している。しかし、理科教育の中で地学の置かれている状況は極めて劣悪であることから分かるように、地質学や地質学会の社会的地位は決して高くはない。一方、ジオパーク運動の飛躍的前進のもとで、地質学に対する関心の増大や地方自治体への若手学会会員の採用などの新たな発展の契機も生まれている。また、一般向け広報誌「ジオルジュ」の発行など、学会活動は従来よりもさらに大きく発展しつつある。

2018年（平成30年）に日本地質学会は設立から125年を迎える。75周年および100周年には、「日本の地質学」（1968）、「日本の地質学100年」（1993）がそれぞれ出版され、学会の歴史や研究の動向などが詳細に総括された。125周年については、理事会のもとに125周年記念事業準備委員会が設置され、検討を進めてきた。125周年記念事業は肅々と取り組むべき課題であるが、単に幾つかの記念事業を遂行するのに留まらず、日本地質学会を飛躍的に発展させる絶好の好機として準備を進めていくが重要である。今回の125周年記念事業は、「一般社団法人日本地質学会」として迎える初めての創立記念事業であり、任意団体としての従来の取り組みよりも大きな可能性を有している。

以上のことを踏まえて、日本地質学会創立125周年記念事業の基本方針を以下のように定める。

- ・2018年1年間を通して、様々な記念事業を実行する（具体案は別記）
- ・本記念事業の目的を、地質学の普及と日本地質学会の社会的地位向上を図ることとする。（マスコミなどへの宣伝、提言、文部科学大臣表敬、教育委員会への要請活動など）
- ・本記念事業を通して、学会活動（学術活動）のさらなる活性化、現在減少している会員数を増やし、地質学会としての社会的活動の飛躍的前進を図る。若手会員の獲得、友の会あるいは新たな賛助会員制度の検討や、ジオルジュの大幅な普及などを通して、組織強化を図る。

125周年記念事業方針

A 全体を通して

- ・125周年のロゴを作る。（ポスター検討）
- ・主旨文を日本語・英語で作り、各方面に協力をよびかける。
- ・記念グッズ（Tシャツ、バッグ、ストラップ等をデザインし、販売する）。記念グッズには地質学会らしくクリノメーターなどを考えてもよい。

B 会員向け

- ・地質学雑誌、ニュース誌、ジオルジュの毎号にロゴをつける。
- ・ニュース誌、ジオルジュに125周年コーナーを設け、アーカイブ、エピソード、インタビューなどを掲載する。投稿または依頼。ジオフラッシュにも掲載。
- ・地質学雑誌特別号で100周年以降の学問の

発展のレビューをする。

C 一般向け

- ・上記ジオルジュの計画は一般向けでもある。
- ・“Geology of Japan”や出版社からの出版物に125周年のロゴを入れ、125周年記念の出版物であることを明記する。
- ・フォトコンテスト入賞作品に地質解説を付して出版する。
- ・ジオパーク関連の書籍（DVD）の刊行。
- ・「各県の石」の企画も考慮する。
- ・地質学会からの提言を発表する。

D 記念式典・記念行事について

- ・地質の日（5月10日）付近、東京で行う。
- ・各支部の地質の日記念事業も125周年をからめて実施する。
- ・記念式典での顕彰はたとえば「小さなEarth Scientist」連続出場校など、工夫して行う。
- ＊学会活動に貢献した学会員を顕彰（毎年の表彰とは別に）
- ＊出版社などの学会活動を支えている外部企業・機関・賛助会員などを顕彰（感謝状的なもの）
- ＊地学を正規授業にしている高校に記念品贈呈
- ＊これまで、年会に発表してくれた中高校の地学部、サークルに記念品贈呈
- ＊地学オリンピックに125周年特別協賛
- ＊全国のジオパークに記念品贈呈など
- ・国内外の学会招待（記念式典）
- ・日本に留学してきた人が母国で活躍しているので、卒業生・在学学生を招待し、シンポジウム・祝賀会を行う。